

進路通信



令和5年10月26日

共通テスト出願完了

共通テスト受験希望者の志願票を9月の末に発送し、先日無事に受領となりました。今年度本校からは約180名の生徒が共通テストを受験します。9月のベネッセ駿台共通テスト模試で3年生の平均偏差値は少し上昇しました。しかし、現役生は最後まで伸びます。むしろここからの伸びが最も大きいと言われています。最後まで頑張りましょう。第一志望はゆずらない！

「年内入試」始まる

10月は多くの大学で「**総合型選抜**」の入試が行われています。そして11月からは「**学校推薦型選抜**」の出願が始まります。昨年度の入試では、全国の大学入学者のうち過半数が、総合型や学校推薦型の「**年内入試**」による入学者だったそうです。年内入試と一般入試を併用し、受験機会を増やすというのがここ最近の傾向です。以下に年内入試それぞれの特徴をまとめました。

総合型選抜：丁寧な面接、小論文、プレゼン、特別活動の評価など（意欲や目的意識重視）

学校推薦型選抜：調査書、推薦書、面接、小論文、口頭試問、資格取得など（高校での成績重視）

もちろんこれらの入試もしっかりと対策をして臨む必要があり、一般入試に向けた学習がストップしてしまいかねないというデメリットもあります。しかし、文部科学省による下の調査結果からわかるように、年内入試の枠は年々増えています（特に総合型の増え方がスゴイ）。

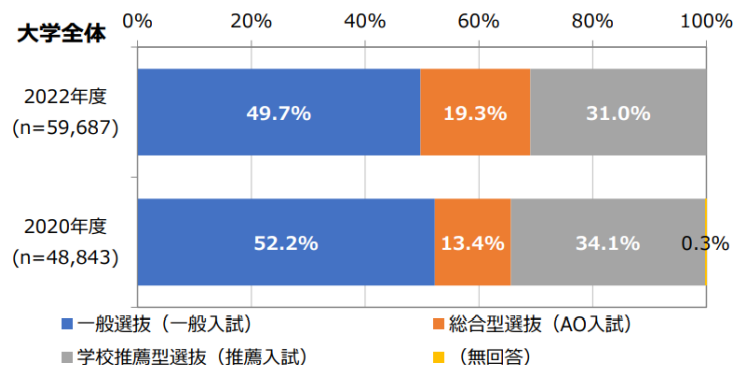


図1 【前回調査との比較】選抜方法(大学全体・選抜区分別)

大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究 (文部科学省 2023)

1, 2年生は、探究、定期考査、各教科の小テスト・課題、英検等の資格取得に今まで以上に力を入れ、年内入試の積極的な活用を検討してはいかがでしょうか。

リケジョ 枠が拡大

令和6年度入試では理工系学部での「女子枠」拡大が話題です。以前から女子対象の推薦入試や奨学金給付を実施していた芝浦工業大学に加え、私大では東京理科大学、神奈川大学などが女子対象の総合型や推薦を始めました。国公立大では、富山大や島根大がすでに女子対象推薦を始めていましたが、R6入試では金沢大、琉球大などが総合型で女子対象入試を新たに実施、東京工業大は総合型・学校推薦型の両方で実施します。また、令和4年に奈良女子大が日本の女子大として初めて工学部を設置して話題となりましたが、来年はお茶の水女子大が共創工学部を新設します。

女子枠拡大・新設の背景には、企業からの圧倒的な需要があるそうです。商品開発や街づくりで成功していくためには、女性の視点がとても大切であり、それらに携わることのできる女性を多くの企業が求めています。就職に強い理工系女子。選択肢に加えてみませんか。

1, 2年 11月ベネッセ総合学力テスト

11月4日(土)に1, 2年生はベネッセの総合学力テストを受験します。7月の模試の結果をもう一度振り返り、「今回は特に何を頑張るか」という目標を設定して対策をしましょう。対策なしの模試は意味がありません。「目標設定→対策→模試→振り返り」を繰り返しましょう

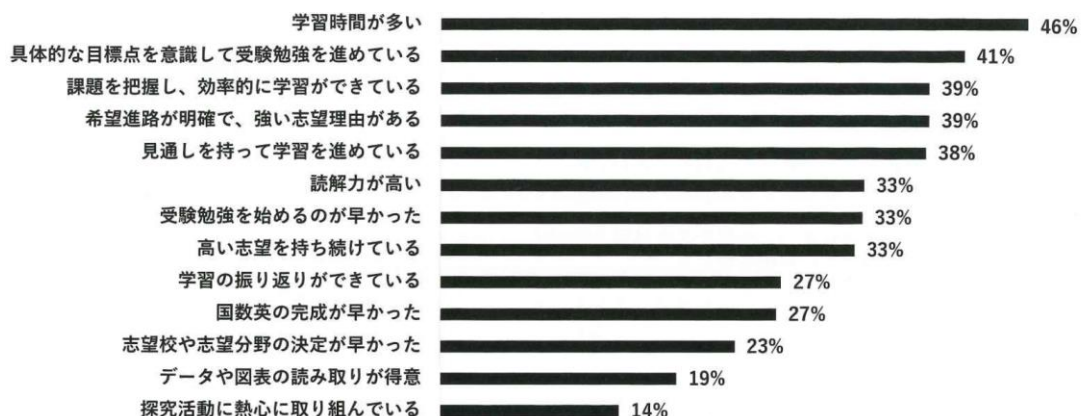


図2 共通テストの結果がよかった生徒の特徴(ベネッセ 2023)

上の図は共通テストに関してのものですが、結果を出すためにはやはり「学習時間」の確保が最も大切です。そして、「国数英の完成が早かった」がランクインしているのにも注目です。国数英で苦手を作らず、1, 2年生である程度完成させられるよう頑張りましょう。